

# 川とともにある生きもののくらし

# 梓川橋上流

梓川橋の上流は、水辺だけでなく河原、れき河原、堤防の草地など多様な環境が見られる場所であり、松本市の生物多様性戦略「生きものあふれる松本プラン」において市民が生物多様性保全の世界への入り口となるモデル地区に選ばれています。

梓川橋上流には、河原や河原林、草地などの多様な環境があり、それぞれの環境に応じて様々な動植物が分布しています。

## 梓川橋上流

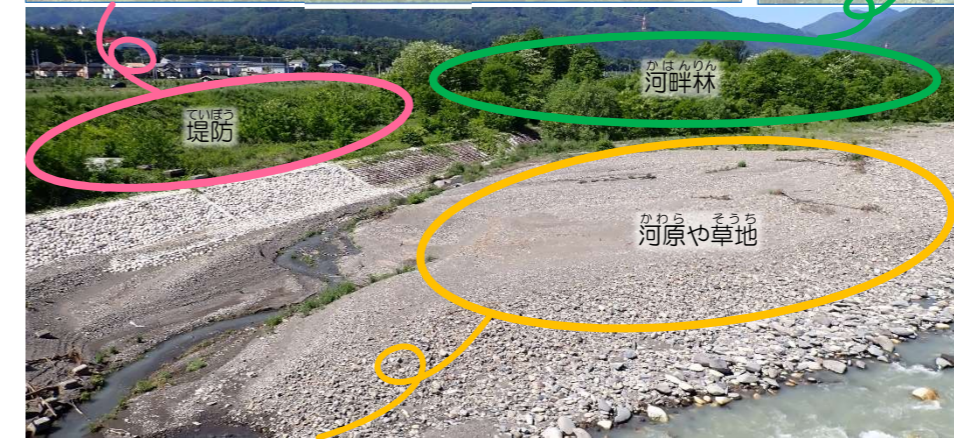
北アルプスのふもとに位置し、山から運ばれてきた土砂の堆積や浸食といった川の作用によって地形や川の流れが変わることで多様な環境ができています。また、駐車場や階段が整備されており、水辺に容易に近づけることから、川遊びの場所としても親しまれています。



## 堤防の生きもの



## 林の生きもの



**注意**

- 行くときは必ず大人と一緒に行きましょう。
- 流れの速い場所や深みには近づかないようにしましょう。
- ハチやヘビ、トゲのある植物に注意しましょう。

## 川という環境とそれを利用する生きもの

石ばかりの河原も放っておくと草地となり、森林に変わっていきます。しかし、川の流れの速い場所では岸が浸食され、流れの遅い場所には土砂が堆積し、そうして土砂が移動することで、それまで地面のあった場所が川になったり、新たに河原ができたりします。こうしてリフレッシュされることで多様な環境が維持されているのです。また、河原のような日当たりの良い乾燥した砂礫地を利用する河川に特有な生きものがいて、その中には希少な生きものも存在します。



## 河原の生きもの



## 外来種の問題

近年は特定外来生物のオオキンケイギクが河原に繁茂してしまい問題になっています。

河原に繁茂するオオキンケイギク

オオキンケイギクの花

■お問い合わせ  
松本市 環境エネルギー部 環境・地域エネルギー課 環境政策担当  
☎ 0263-34-3268

